

# 環境に優しく住宅を支える地盤を改良

## 低炭素型地盤改良工法 『スクリー・プレス工法』

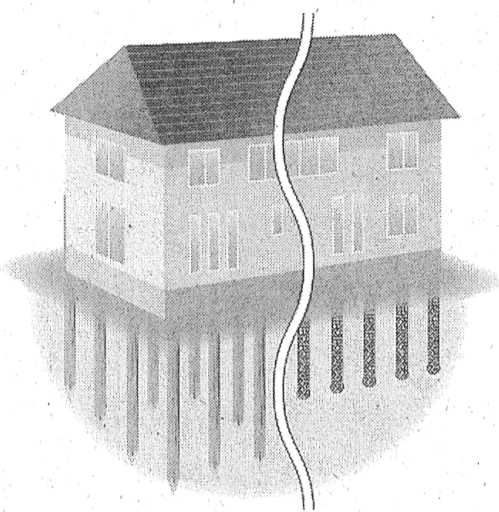
### グラウンテック

グラウンテック(事業本部)

〒富山県氷見市上泉五一、

☎〇七六六一九一一六一

一)は、二月五日・六日にパシフィコ横浜で開催された「震災対策技術展」に、戸建住宅向け地盤改良技術「スクリー・プレス工法」を紹介し、好評を博した。



スクリー・プレス工法概念図

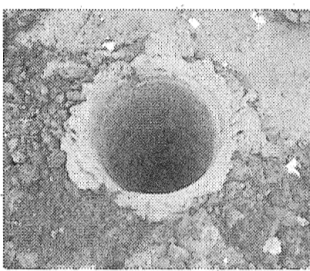
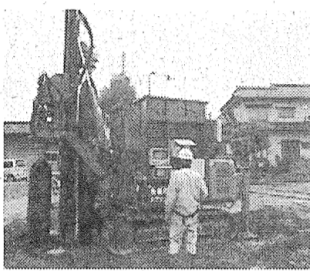
東日本大震災の発生以来、全国各地で地震が頻発していることに加え、東海沖地震や南海トラフ沖地震など大規模な地震の発生が予測される我が国においては地震に対する備えが急務となっている。

同社の推奨する「スクリー・プレス工法」は、低コストで環境に優しく軟弱な地盤を地震に強い強固な地盤へと改良できる地盤改

良工法。液状化抑制効果も確認されており、住宅を支える確かな地盤をつくる。同工法は、軟弱な住宅地盤を垂直に掘削し、間伐材または砕石を用いてパイルを形成し、強固な地盤へと

改良するというもの。専用施工機を用いて、ネジ状の原理でスクリー自身

施工状況①と掘削孔②



間伐材は地場産の杉材(末口φ150)を使用。本来廃棄される間伐材を杭に使用することでカーボンストックとなり、環境保全に貢献する。

杉材の圧縮強度は22〜35 N/mm<sup>2</sup>とコンクリートに匹

敵する強度があり、安心の地盤を築く。

一方、砕石パイルに使用する砕石は全て自然石を使用。投入された砕石は300〜400mm毎に転圧し、地盤中の弱い部分に砕石を深く食い込ませることで支持力をさらに高める。

また、砕石パイルが支持層に到達していなくても優れた支持力を発揮する。セメント系固化材を用いた従来の地盤改良工法は、

アスベストに並ぶ発がん性物質である六価クロムを発生させてしまう恐れがあるが、自然素材をパイルに利用する同工法は環境に負荷を与えない。

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材



また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材

また、従来の地盤改良材